

## クロアシコメツキモドキの発生について

- 1 病虫害名：クロアシコメツキモドキ *Languriomorpha nigritarsis* (Waterhouse)
- 2 発生作物：くさそてつ（こごみ）
- 3 発生の経過  
令和 8 年 3 月、県南部の促成栽培のくさそてつ（こごみ）の茎に害虫によると思われる食害痕（図－1）が認められ、同時に光沢のある黒色の甲虫（図－2）が複数確認された。  
本県において同作物の加害を伴う当該甲虫の発生は過去に確認されていないため、当該甲虫の同定を農林水産省横浜植物防疫所に依頼したところ、クロアシコメツキモドキ *Languriomorpha nigritarsis* (Waterhouse) であることが判明した。
- 4 形態・生態と被害の特徴
  - (1) 成虫の体長は 8～13mm。体色は光沢の強い黒～暗緑色である。
  - (2) 本種は北海道から九州にかけて生息が確認されている。
  - (3) 成虫が葉柄を食害し、葉柄内に産卵する（図－3）。
  - (4) ふ化した幼虫は葉柄の組織内を食害すると考えられる。
  - (5) 本種の生態については未だ不明な点が多い。
- 5 寄主範囲
  - (1) 本種の幼虫はくさそてつ（こごみ）やわらびの害虫とされている。他県における確認例として、北海道では、くさそてつ（こごみ）栽培ハウスでの食害（北海道病虫害防除所 2004）、岩手県ではわらびほ場での食害（岩手県病虫害防除所 2013）が報告されている。
  - (2) 一般にコメツキモドキ科の幼虫は、イネ、トウモロコシ、タケなどの単子葉植物やシダ植物の組織内を食害するとされている。
- 6 防除対策  
本種を対象とした登録薬剤はないため、成虫を見つけ次第除去する。  
成虫に食害された葉柄内には卵が産み付けられたり、すでに幼虫がいる場合があるため、新たな発生源とならないように早期に除去する。

7 資料



図-1 くさそてつ（こごみ）の被害状況



図-2 クロアシコメツキモドキの成虫



図-3 くさそてつ（こごみ）葉柄内の卵

【 問合せ先 】

秋田県病虫害防除所	TEL 018-881-3660
秋田県農業試験場	TEL 018-881-3326
掲載HP <a href="https://www.pref.akita.lg.jp/bojo/">https://www.pref.akita.lg.jp/bojo/</a>	